

イノベーション創出
に資する施設整備

学生の修学支援
に資する施設整備

グローバル化に
対応した施設整備

その他

グローバル化時代を生き抜く「知」の交流拠点として



基本情報

大学名：岡山大学
建物名：中央図書館
工期：平成25年8月～平成26年3月
構造・階数：RC 地上3階
延床面積：16,266㎡
(改修面積 3,267㎡)
(増築面積 298㎡)

建物 外観写真（改修後）

建物 外観写真（改修前）

整備の方向性

○大学図書館をグローバル化時代を生き抜く「知」の交流拠点にリニューアル

- ・ 建築後55年を経過した老朽化が著しい施設の耐震性の確保と機能改善を行うとともに、外観、内装を一新。
- ・ 学部や研究科の境界を越えた全学的な活動が可能で、全世界で活躍する人材輩出のための基盤であるリベラルアーツを醸成する場としての附属図書館改革において、大きな一歩となった。
- ・ ラーニングコモンズの新設や語学学習コーナーの充実化等により、多様化する利用者ニーズに対応。

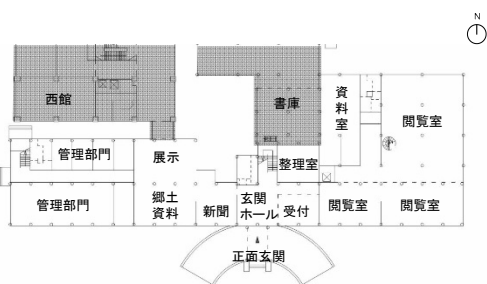
計画・設計上のポイント

○利用者が望む利便性と機能性にすぐれた開放的で明るい学修環境の整備

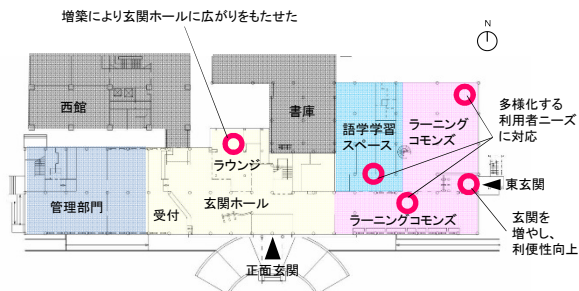
- ・ 岡山大学のシンボルでもある「時計塔」の意匠を大切に残しつつ、周辺をガラスウォールに変更。多くの光を取り込み明るく開放的な学修空間となっただけでなく、建物内から岡山大学キャンパスの景観や桜・紅葉が楽しめるようになった。
- ・ 増築によって、本館の中央部に正面玄関としてふさわしい広がりを持たせた。
- ・ 1階～3階のそれぞれで論語の“知好楽”をテーマにした空間づくりを行い、利用者の皆さんのその時々々の学修にふさわしいスタイルが選択でき、知の輪を広げ、知の心を熱くする空間を創成した。
- ・ 正面玄関のほか、東側（食堂・売店側）にも玄関を設け、利便性を向上させた。

1階 未来を切り開く空間

・1Fは多様な人が集まり、アイデアや思いを出し合える空間とした。お互いに刺激しあうことでよりよいものが生まれる“アクティブな学び”の場である。



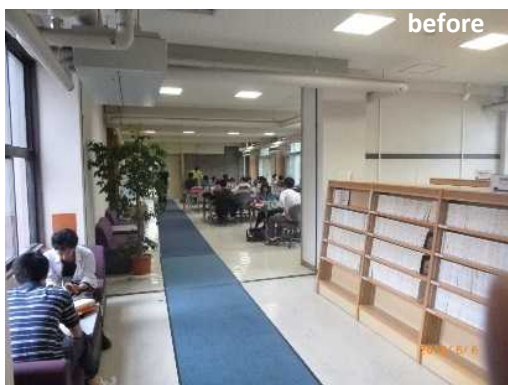
Before



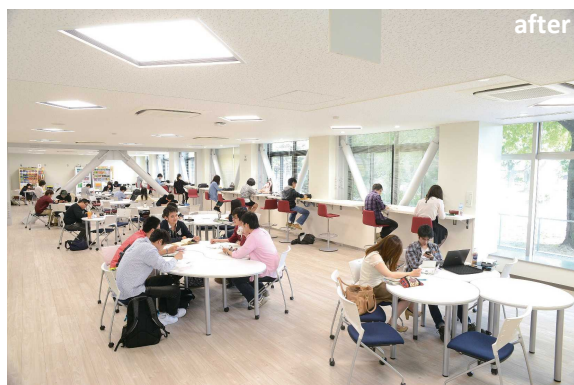
After



正面玄関



ラーニング
コモンズ

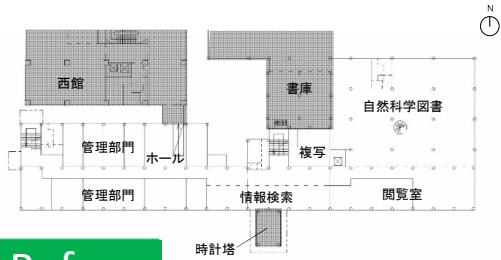


語学学習
スペース

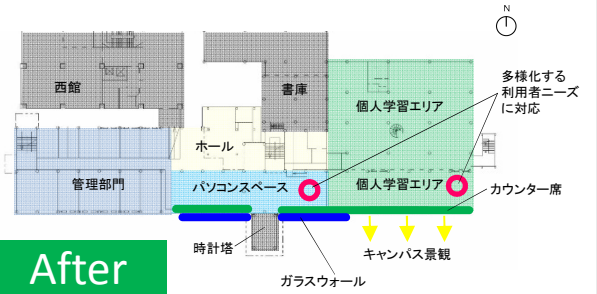


2階 現在(いま)を感じる空間

- ・ 2Fはひとりでじっくり学習するための個人学習スペース。窓側にはカウンター席も用意。目の前には岡山大学構内の緑が広がる。



Before



After

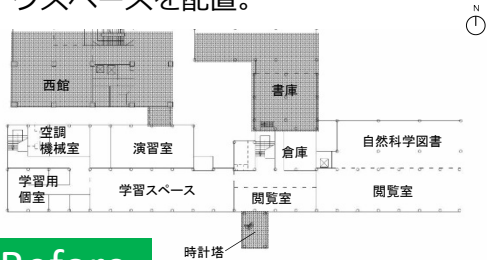


パソコン
スペース

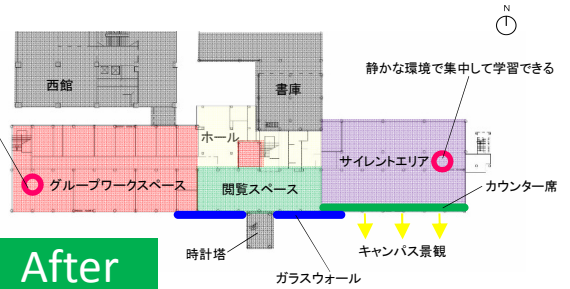


3階 知の継承に触れる空間

- ・ 3Fは東部にはより静かな環境で集中して学習するためのサイレントエリア、西部にはグループワークスペースを配置。



Before



After



閲覧スペース
サイレントエリア



グループワーク
スペース



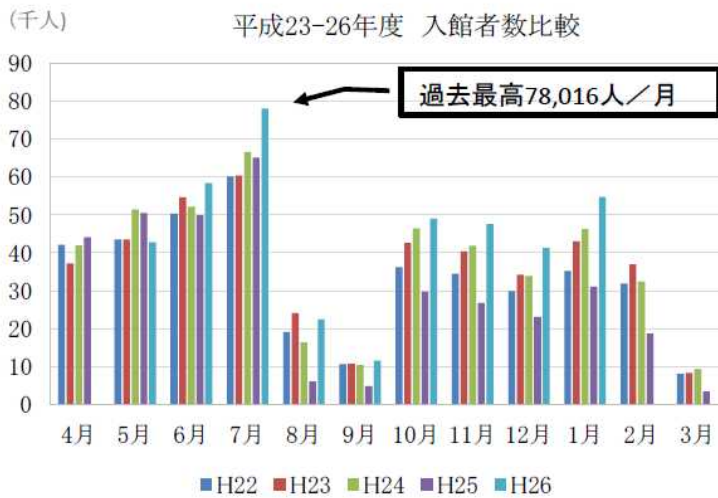
施設整備の効果

○学生が集い学べる場所が充実し、新たな「学修の場」としての機能強化へ大きな一歩

- ・正面の時計台脇の壁面をガラス張りにし、学生から「開放的で明るくなった」という声が聞かれる。
- ・1階では学生らが飲み物を片手に楽しそうに学ぶ姿が見られ、3階のグループワークスペースを利用して共同学習する学生も多い。
- ・正面に加えて東側（食堂・売店側）にも玄関を設けたことにより学生や教職員の行き来もしやすくなった。

○入館者数の増加

■ 入館者数

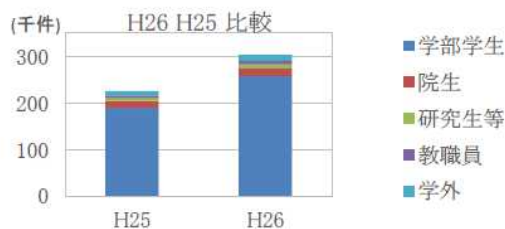


- 平成26年5月9日にリニューアルオープン。
- 6月には前年を上回り、7月は前年比1.2倍の過去最高を記録した。

※改修後、ほとんどの月間実績で入館者数が過去5年間の最高値となった。

■入館者数統計詳細（機械集計データ5～11月分のみを対象）

1. 身分別



- 対前年同月期の合計で1.34倍に増加した。身分別でも、院生を除き、大きく増加している。
- 学部学生が約85%を占めている。

学生支援環境及び学修環境を拡充・充実

基本情報

大学名：香川大学
 建物名：図書館・OLIVE SQUARE・
 大学会館
 工期：平成25年8月～平成26年5月
 構造・階数：RC 地上4階（図書館）
 S 地上2階（OLIVE
 SQUARE）
 RC 地上2階（大学会館）
 延床面積：7,302㎡（図書館）
 754㎡（OLIVE
 SQUARE）
 3,299㎡（大学会館）



北側外観(左から大学会館・OLIVE SQUARE・図書館)

整備の方向性

○人材育成等の支援施設整備

- ・教育研究及び利用者のニーズに対応するため、教育研究の中心となる図書館及び、学生生活の中心となる大学会館の改修工事を行った。
- ・自学自習や学生・教職員が学部枠を越え自然・自発的に交流できるスペース及び、一般市民を対象とした講演会スペース等の多様な機能を持ち合わせた、OLIVE SQUARE（公募により名称決定）を整備した。
- ・学修機能の強化、課題創出能力を持った人材の育成、グローバルな人材の育成、学際的な交流の促進及び地域社会への連携強化を目指した。

計画・設計上のポイント

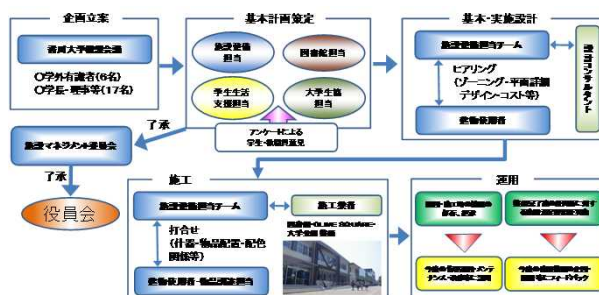
○学生支援・教育環境充実のための整備

- ・基本計画は、図書館・学生生活支援・大学生協担当及び施設整備担当等の関係各部署が連携し、情報共有を図り策定した。また、学生・教職員向けに行ったアンケートの意見も踏まえた。

この基本計画はキャンパスマスタープランや法令上の制限との整合を図った上で、施設マネジメント委員会及び役員会の了承を得た。

○補助金に加え自己財源等を投入

- ・本施設の整備に当たっては、施設整備費補助金に加え自己財源を投入して整備した。また、大学会館のベーカリーカフェ等については、大学生協で整備し、寄付を受けた。



Before

図書館



After



大学会館



OLIVE SQUARE



学習ラウンジ



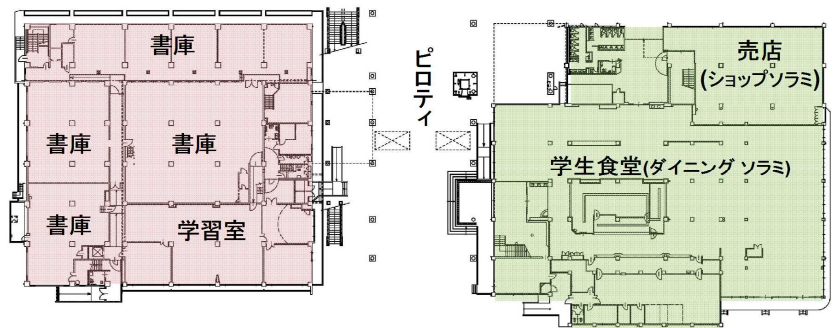
イングリッシュカフェ



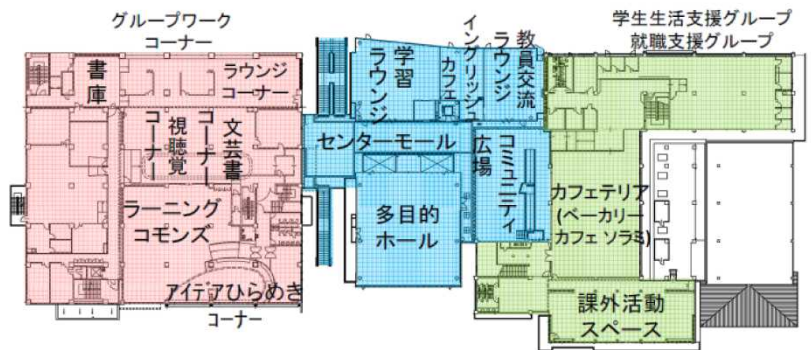
多目的ホール



教員交流ラウンジ



図書館・OLIVE SQUARE・大学会館 1階平面図



図書館・OLIVE SQUARE・大学会館 2階平面図

施設整備の効果

○多様な利用による交流の活性化

- ・図書館、大学会館改修により、利用者が増加したことで教育研究での利用や意見交流等を通じお互いを触発し合う空間として機能している。
- また、その中心にあるOLIVE SQUAREの利用も活発となり、学生の自学自習やサークル活動、留学生との交流、講演会、地域交流の場等として、多目的に利用されている。

○安全・安心な施設環境の整備

- ・耐震性能が低く危険性の高かった図書館及び大学会館の耐震補強整備を行うことにより、災害時における学生、教職員等への安全性が確保できた。

○環境配慮型設備の導入

- ・外部に面したガラスは日射熱等の対策として高断熱性・結露軽減に有効なLow-Eガラスを導入し温熱環境の確保と年間冷暖房負荷の低減を実現した。また、照明器具はLED及び昼光センサーを導入し、省エネ効果を図った。

○キャンパス全体の快適性・利便性の向上

- ・知的・活動的動線として、教育研究の中心である図書館と、学生生活の中心である大学会館の2階部分をOLIVE SQUAREのセンターモール（デッキ通路）で接続することにより、それぞれの活動を開放的空間で展開することを可能にした。また、キャンパスを南北に貫く動線を確保するためOLIVE SQUAREの1階部分をピロティとし、キャンパス全体の快適性・利便性の向上を図った。



OLIVE SQUARE (2階コミュニティ広場)



OLIVE SQUARE (2階センターモール)